



参加者は22名、晴天に恵まれた楽しいバスの旅となりました。今回の行程は、福島市民家園（福島市上名倉）道の駅ふくしま（福島市大笹生月崎）旧堀切邸（福島市飯坂町）旧亀岡住宅（伊達市保坂町）という、歴史的建造物をガイド付きで巡るものでした。

最初に訪れたのは福島市民家園でした。敷地は11万平方メートルの園内に、江戸時代中期から明治時代にかけての東北地方の民家を中心に、梁川村（現在の伊達市）の芝居小屋や、福島市内の商人宿や料亭、会津地方の民家などが移築復元されています。復元された多くの建物は、それぞれ国、県、市指定の文化財として保存されています。まず目を引いたのは、旧佐久間家の板倉です。板倉としては大型で、柱間に板を落とし込む構造が特徴的でした。次に、旧小野家の大きな養蚕農家、「階の「みせ」」部分に見られる部戸（しとみど）が特徴的で二階座敷が宿泊に利用された旧算家宿と見学し、幕末の歴史的

な舞台となった割烹旅館「元客自軒」では、数寄屋造りを簡略化した建築様式が見受けられました。さらに、馬屋中門造の旧馬場家では、この地域ならではの「火伏」のお守りを目にすることができました。園内で最も大きな国指定文化財である芝居小屋「旧広瀬座」は、残念ながら改修中で見学できませんでしたが、古民家では珍しい大壁造（柱が見えない構造）の旧菅野家を見逃したことを武井さんと遠藤先生に話すと、写真を見せていただき、実際の構造についても安高先生のお話で学ぶことができました。

午後の見学は、国指定登録文化財である「旧堀切邸」へ。江戸時代から続いた豪農・豪商の旧家が修復・復元されており、天井の高い贅沢な造りでした。母屋に隣接する二つの蔵は、使用されている建材やデザインが異なり、その多様性が非常に興味深かったです。また、奥州三名湯に数えられる飯坂温泉郷に位置しており、温泉にも興味を引かれました。

最後の見学は、国登録有形文化財である「旧亀岡家住宅」です。明治時代に蚕類製造で財をなした有力者の邸宅で、建材には貴重な銘木が使用されています。書院や床の間、欄間など、細部にわたる精緻な造作が施されており、亀やリスの彫刻が密かに施されている点にも、遊び心を感じました。外観は洋風、内部は純和風の書院造りという入れ子状のユニークな構造で、洋風（M）と和風（W）のモジール（規格）の違いをどのようにな解消したかという点が非常に興味深かったです。住宅とは思えない規模の建物で、建築には多くの大工や職人が関わったことが伺えました。

今回の旅を通じて、隣県にもまだまだ多くの貴重な場所があることを再認識しました。「古きを訪ねて新しきを知る」イノベーションの種は意外にも古いものの中に隠れているのかもしれません。普段あまり交流のない会員の皆さんとも触れ合うことができた有意義な時間でした。次回の旅も楽しみです。

「秋のみのく福島 歴史的建築物をめぐるバスの旅」

NPO法人大谷石研究会 会員 櫻井澄子
（ナックススペースクリエーション級建築士事務所/マチノバススペース610 こども建築塾）



大網石（桜石）造の下小池倉庫外観



駒生倉庫の内部実測

J Aうつのみや管内石蔵 「農業倉庫」の調査

NPO法人大谷石研究会 理事 遠藤康一（宇都宮大学）

宇都宮市近郊には、昭和初期以降に建築された農協（JA）が保有・管理する石造の農業倉庫（石蔵）が各所に残り、地域の資源と産業、人々の関わりやその痕跡を留める文化的景観を形成しています。かつてこれらの石蔵は、政府の食糧政策遂行の重要な基盤でしたが、農業の近代化が進むにつれてその役割が薄れていきました。さらに近年は老朽化が進み、やむ無く取り壊される事例も少なくありません。

大谷石研究会と宇都宮大学遠藤研究室では、この貴重な空間資源の現状を把握し基礎的な情報を整理するために、3月11日（月）と8月7日（水）の2日間、JAうつのみやの協力の下で調査を行いました。1日目は所在調査を目的としたもので、9箇所18棟の石蔵が確認されました。それらは、下小池（大網石）、駒生（大谷石）といった一部の戦前のものを除き、

大半が戦後農協の下で平成初期までの間に建築されたことが推測されるものです。2日目は、中でも立地環境に優れた2箇所（駒生、金井）について内/外の簡易実測調査とヒヤリング、また2箇所（下小倉、屋敷）について外観調査を行いました。JA城山支所併設の駒生倉庫は、2棟の大谷石積石造・控え壁付の石蔵（1棟は昭和21年建築）が、日光街道の桜並木に面する金井倉庫は、2棟の石蔵（大谷石積石+RC臥梁造・昭和37年、大谷石積石+RCラーメン造・昭和43年）が現存、建築年代による構法の展開を見ることができました。

地域工法により造られ、地域の農業経済を支え、農業に従事する人々を中心とする地域拠点としての記憶を次の世代に引き継ぐための方法を検討するために、引き続き調査を継続して参ります。



2棟の石蔵が雁行配置された金井倉庫

■栃木県立博物館友の会2024年度講演会 〈予定表〉

	会期	講師	内容
1回	10/26(土) 終了	宇都宮大学地域デザイン科学部助教 大嶽陽徳	「建築家更田時蔵の仕事 旧大谷公会堂・旧大内村役場・T代議士邸について」
2回	11/23(土) 終了	株式会社 アトリエ慶野正司 慶野正司	「石蔵のリノベーション吉田村ビレッジ物語」
3回	12/22(日) 13時30分～	千葉大学工学研究院教授 安森亮雄	「日本と世界の石のまちと建築」
4回	1/18(土) 10時～	小山工業高等専門学校建築家助教 小林基澄	「岩船石の建造物について」
5回	2/9(日) 13時30分～	宇都宮大学地域デザイン科学部講師 遠藤康 陶芸作家 藤原郁三	「ワグナー・ナンドールの建築と作品について」

会員通信

すばーぞ!大谷

ふるさと学習

宇都宮市立城山中学校の巻

NPO法人大谷石研究会 広報担当 佐藤光弘
（栃木県立博物館）

「石のまち」大谷の地元、宇都宮市立城山中学校では、「ふるさと学習」として地域探索学習を行っています。ふるさと大谷の歴史と文化を再認識するとともに、魅力ある街づくりに向けて問題点について考え、自分の生き方につなげていこうとする活動です。今年度は、9月3日・4日の2日間全学年一斉に行われました。各班現地調査から始まり、最後にはまとめた発表まで、生徒たちの主体的な活動が展開されました。各班の探索ポイント、下の一覧表の通りです。この活動の詳しい活動の様子（含写真）は、同校のホームページをご覧ください。

その他同校では、「あったか活動」と呼ばれる地域の清掃活

◆「ふるさと学習」各学年のテーマと各班の探索ポイント◆

- | | |
|------|--|
| 1 学年 | 城山地区の歴史を学ぼう
大谷寺・平和観音16、大谷資料館24、多気山22、森林公園18、古賀志山22 |
| 2 学年 | 城山地区の魅力的な産業について学ぼう
駒場牧場19、OHYA BASE19、阿部梨園18、日光ゆば製造18、小野口ファーム19 |
| 3 学年 | 城山地区の魅力を発信しよう
大谷寺・平和観音20、大谷資料館19、大谷石産業23、多気不動尊20、ジャパンカップ17 |

取材を通して、後輩たちが新鮮な気持ちで活動に取り組み様子に、頼もしさを感じました。「石のまち」大谷に誇りを持ち、新しい世界で活躍してほしいです。中学校の取材に丁寧に対応していただいた南木睦先生、ご協力ありがとうございました。

大谷石 東西南北 東京駅待合室の落ち着きを演出

NPO法人 大谷石研究会 広報担当 平沼 隆志

この大谷石を、どれほど多くの人々が日々、目にしていることだろう。ここはJR東京駅新幹線改札内の待合室。全国各地に向かう人々でいつも混雑している。喫茶の壁に使われた大谷石が、椅子に座れば自然と目に入る。列車や連れを待つ人々の気分は十人十色。つまり、この部屋には喜び、憂うつ、悲しみ、いら立ち、怒りなど種々雑多な感情が持ち込まれる。雑然とした雰囲気になりにかねない。落ち着いた雰囲気の演出で大谷石が一役買っている気がする。商品や注文方法の掲示で隠さないでほしいものだ。



「日光金谷ホテル」 （24頁掲載）
2階建てが地下を掘り下げて3階建てになった

写真集「大谷石 未来へ」

NPO法人 大谷石研究会
2,500円（税込）113頁

販売書店

【東京都】 丸善丸の内本店
日本建築学会 建築書店
南洋堂書店
【栃木県】 落合書店（宝木店・イトーヨーカドー店・トナリエ店・東武店）
うさぎや（作新学院前店・宇都宮駅東口店・宇都宮テクノ店・東楽瀬店・戸祭店・矢板店・自治医大店・栃木城内店・益子店）
ビッグワン（若草本店・400号西那須野店・黒磯店） 森百貨店
栃木県立博物館 宇都宮美術館

